



眼底検査

何をする検査？

単純に言うと眼球に光を当てる検査です。瞳孔を開く目薬を使う散瞳検査と、瞳孔を開かない無散瞳検査がありますが、プチ健診では、検査後に車の運転ができるよう無散瞳検査で行います。

何を見ているの？

眼球の奥にある網膜と呼ばれるカメラのフィルムに相当する透明な膜に光を当てることで、網膜の奥にある血管の異常性や太さ硬さや視神経を見えています。

何がわかるの？

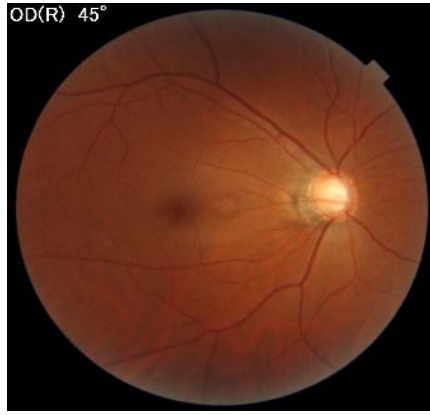
白内障や緑内障、動脈硬化や高血圧、加齢が原因で失明する黄斑変性症等の病気がわかります。また、糖尿病網膜症の病態も段階的に把握することができます。特に緑内障、糖尿病網膜症は失明原因1位2位の病気であるため注意が必要です。

どんな人におすすめ？

自覚症状のない40歳以上が対象です。特に緑内障は自覚症状が乏しく、発見しにくい病気ですので定期的に検査を受ける事をおすすめします。



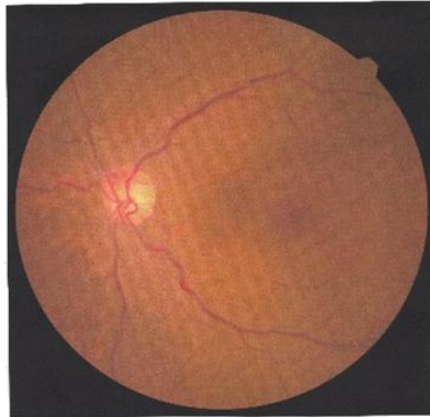
正常



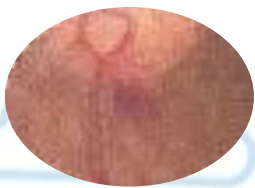
写真は正常な網膜、中心右の白っぽい部分が視神経。
太く赤い血管は静脈、薄い血管が動脈になり、真ん中の黒い部分とその周りが黄斑部といえます。



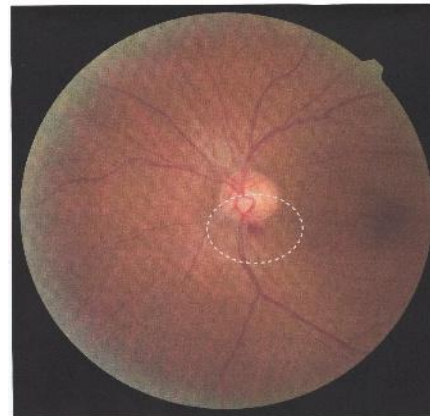
蛇行



網膜の静脈が蛇行し、高血圧や動脈硬化を疑います。



出血



視神経を円で囲った箇所は、赤く出血がみられ緑内障を示唆するサインと言われてます。

検査の結果は、医学的な診断を示すわけではありません。
検査結果が気になる方は、検査結果をお持ちの上、受診をしてください。